

質問箱

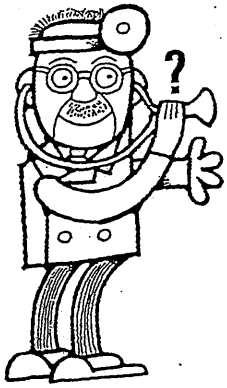
Q・コレステロールが高い時どんなことに気をつけたいら良いでしょうか(Nさん)

A・血中コレステロールの正常値は二二〇mg/dl以下とされています。コレステロールが高いと、動脈硬化になりやすく、血圧が上がったり脳卒中や、心臓病も起こりやすくなります。

食べ物としてとったエネルギーが、体を動かすことなどで使ったエネルギーよりも多い時、その余った分がコレステロールに変わります。ですから、コレステロールが高いということは食べ過ぎということになります。

この食べ過ぎを抑えるのもっとも良い方法が食べ物の中の脂肪分を減らすことです。

運動をすることもコレステロールを減らす効果があります。院長



患者さんと医者との関係

よく話し合って納得のゆく診療を受けましょう

「病気は自分で治す」

病気は自分で治す、医者はその手助けをするだけと良く言われますが、実際にはどうでしょうか?

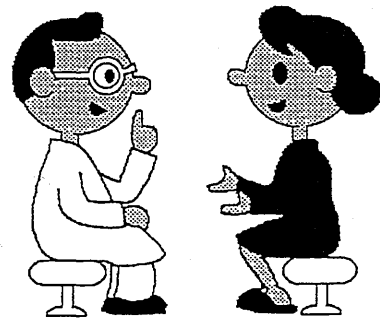
「自分の病名を知らない」

長い間、病院、診療所にかかっている自分の病名を知らない人が多勢います。

手術を受けていて、その病名がなんだったのか、どんな手術をしたのか、全く知らない人もいます。医者が十分に説明していないこともありますが、患者さんの方も無責任だと思えます。

「患者さんはいい受身になりがち」

患者さんは、体の具合の悪い所を持って、治療に来ています。医者は専門的知識でそれに当たっている、ということでもうしても患者さんが受身になりがちです。病院も診療所も患者さんたちに来ていただくことで成り立っているものです。立場的にはどうせん対等なはずですが。



「病名・治療法は医者が決める」

患者さんが病名や、治療法を口に出すと、怒る医者がいるそうですが、それはまちがいです。患者さんの方に意見があればどんどん言ってお互いに納得のいく診療をしてゆきたいと思えます。

「インフォームド・コンセント」

「説明と同意」と訳されていますが、医師は患者さんに、病状や治療方針などをよく説明し、理解していただき、その上で、患者さんの同意を得て、検査や治療を進めてゆかなければならないということなのです。最近になり、よく話題になっていますが、まったく当然のことですが、無視されていたということでしょう。

「医者ぎらい」

・病院ぎらい

病院に入り、医者の前に出たとたん、すべての意志決定権を奪われ、事情が分からぬまま、検査を受け、びっくりしている間に手術になってしまふ。というようなことがあるためこういう医者ぎらい、病院ぎらいなどという人が出てくるのではないのでしょうか

「インフォームド・コンセント」ができていれば、こういうことはない訳です。

「なぜうまく行っていないのか」

以前は、患者さんの病気に対する知識が少なく医者が説明してもなかなか理解してもらえず、手術の実際的な説明など聴くと、びっくりしてしまい、死んでもいいから、やめます、などという人が多かったのです。医者が患者さんの親だったらどうするか、という立場で診療を進めてゆくことが多かったのです。

「今では患者さんの知識が高まっています」

患者さんの知識が高くなっている現在でも、今までのままの診療を続けている医者もいます。患者さんに、何も教えないで検査や診療を行うのは、患者さんの判断力を無視していることになりまふ。

「どんな診療のしかたが望ましいのか」

まず患者さんには、自分の病気は自分で治すという自主的な考え方をしていただきたい。

医師は、患者さんへの的確な助言をし、情報を提供し、患者さんの正確な判断を下す手助けをする、ということになります。患者さんは、自分で判断した以上、その結果については、多くの部分は自分で責任を持つこととなります。これは、あくまで共同作業で対等な立場で行わないとうまくゆきません。

わからないことはお互いに良く話し合い、納得の上で診療をすすめてゆきたいものです。院長

☆受付からのお願い

月初めには必ず保険証を受付にお出し下さい。診察券は毎回お持ち下さい。

1月・2月の休診日  
日曜・祭日・水曜日午後

